



桧原苑だより

第124号

編集・発行
指定介護老人福祉施設
桧 原 苑

東京都西多摩郡桧原村 5650-8
TEL:042-598-0333
FAX:042-598-0334



謹賀新年

あけましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より社会福祉法人緑水会の事業に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、改めて当法人「社会福祉法人緑水会」の事業を紹介いたします。当法人では桧原苑を含め、ひのきのその・精神障害者地域生活支援センターフィレの三施設を経営しております。

桧原苑は昭和五十六年十二月一日に特別養護老人ホーム（百名定員）として開設し、平成二十八年十二月、百二十名定員のユニット型特別養護老人ホームに建て替えし現在に至っています。

ひのきのそのは、平成十一年四月、桧原村に精神障害者通所授



社会福祉法人
緑水会 理事長
岡部 義和

ご挨拶



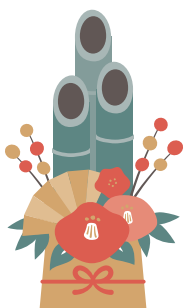
産施設として開設し、制度改正等により現在は就労継続支援B型事業所として事業を行っております。主に精神障がいのある方を対象に手作り菓子の製造や喫茶ギャラリーの営業、近隣企業から依頼を受けて車や電気部品等の組み立てや加工を行う下請け作業等、軽作業を行い工賃を得る活動を通じてご利用者の「社会参加と自立」を支援しています。また、檜原村にお住まいの障がい者(知的障がい、身体障がい、精神障がい)、障がい児、そのご家族のご相談等にも対応しています。

精神障害者地域生活支援センターフイレは、平成十五年十月あきる野市に地域生活支援センターとして開設し、現在は地域活動支援センター事業(Ⅰ型)として事業を行っています。主に精神障がいのある方を対象に、軽作業を行い、工賃を得る活動(生産活動)や簡単な創作活動等のレクリエーションの場を提供する活動(グループ活動)を行っています。ひのきのそのとの違いは、「社会参加と自立」が主

な活動の目的ではなく「日常生活の充実」を目指しているところです。同建物内にてあきる野市障がい者基幹相談支援センター事業も併せて行い、あきる野市にお住まいの障がい者(知的障がい、身体障がい、精神障がい、難病の方等)、障がい児、そのご家族のご相談等にも対応しています。

その他大きな事業として東京都が計画している秋川南岸道路が、現在のひのきのそのの建物に当たするため、移転をしなければならなくなり、あきる野市引田駅近くに今年三月末完成を目指し建設を行っています。事業内容は大きく変わりますが、喫茶室・展示ホールは残念ではありませんが無くなります。

以上のとおり、当法人では高齢者及び障がい者に対して支援する事業を行っており、今年も大きく変わることなく事業を継続して参りますので、昨年同様ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



昨年は暑い日が多かったですね。そのため秋が短く、夏からよくわからないまま冬に突入したような気がします。今年もまた暑い一年となるのでしょうか？

令和となり早いもので七年目、書道クラブでは毎年年の初めに書初めを行っています。

十二月から練習の日を設け、本番に向け力作が出来るよう取り組んでいます。

お題は自由ですが、やはりお正月にちなんだ「謹賀新年」や「賀正」などが多いようです。



今年も皆さんに書いて頂いた力作は、三階のエレベーター横の多目的スペースに展示しますので、お越しの際にはぜひご覧いただければと思います。

ここで一句。

「一筆に 思いの丈の 清らかな」

うーん、よく見れば、季語が無くてごめんなさい。

(広報委員S・O)



紅葉狩り

昨年暑暑い日が多く、場所によつては十一月になつても夏日を記録するようなどころもありました。

そんな昨年でしたが、紅葉やイチヨウがようやく色づいてきた十一月に、各ユニットそれぞれで企画して、村内の紅葉狩りに出掛けました。

檜原村は山に囲まれ、面積が広いので始めのうちは都民の森など標高の高いところから色づきはじめ、順に麓のほうに降りてくるので、各ユニットで情報共有しながら紅葉狩りを行いました。



天気が良ければ、都心やスカイツリーが観える浅間尾根駐車場や神戸岩駐車場、人里地区や役場前、弘沢の滝駐車場などなど、その時の状況に応じて行く先を変更して実施しました。

それぞれ行った先で持って行ったおやつを食べて頂いたり、みんなで記念撮影を行ったり、各ユニットでそれぞれ楽しめました。

今年度も季節を感じる外出を企画しますので、みなさん楽しみにしてください。

(広報委員S・O)

敬老の集い

感謝

まだまだ残暑の続く九月十一日、「敬老の集い」を行いました。米寿五名、百寿一名、百一歳の方一名、最高齢者男女二名の計九名を顕彰し、式典後はボランティア「創舞錬(そうぶれん)様」による演芸で盛り上がり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

皆様、大変おめでとうございました。これからもお元気で、檜原苑での生活を楽しんでください。

(広報委員H・M)



大正琴演奏会

秋の恒例である大正琴演奏会を十月三十日に開催いたしました。松原苑の企画行事の中でもご利用者と職員で大正琴の演奏に合わせ、唄って盛り上がることの出来る好評の行事になります。

今年度も大正琴ボランティアの方々に来苑いただき、素敵な音色とお話で会場はすっ



かり魅了されてしまいました。映像から流れてくる音ではなく、普段聴き慣れない生の和楽器の音に感銘を受けました。参加されたご利用者も往年の名曲を懐かしみ、思い思いに楽しまれました。

今後もこのような行事を通してご利用者に楽しんでいただける空間、環境を増やしていきたいと思っています。

(広報委員T・D)

松原小学校交流会

今年も松原小学校の一年生、二年生の皆さんが来苑し、松原苑のご利用者と職員を笑顔にしてくださいました。

歌を歌ったり、劇をしたり、自作のカルタと一緒に遊んだり、ご利用者だけでなく、職員もマスクの上からでも分かるほど笑顔になっていました。

感動の時間をありがとうございました。また来年もお待ちしております。

(広報委員H・M)



大運動会

十月二十五日、桜・桜・桃・楓の四ユニット合同で「大運動会」が開催されました。開催場所は施設の一階廊下で、様々な種目が行われました。「玉入れ」では、玉入れ用のかごを職員が担ぎながらご利用者の前を歩き回り、ご利用者は全身をうまく使われ玉を投げていました。中には力を入れすぎてあらぬ方向に玉が飛ぶこともありま



した。「パン食い競争」では、職員がご利用者に声掛けし付き添いながら吊るされたパンまで誘導しました。ゴールしたご利用者に職員が記念撮影のためカメラを向けるとパンを口にくわえたまま、いい笑顔でカメラに視線を向けられていました。「ボーリング」では、職員手作りのペットボトルのピンに向けて、ご利用者がゴムボールを転がされ、どのユニットが多く倒せるか競いました。

最後に事務所の職員とユニット職員によるエキシビジョンマッチ「綱引き」が行われました。ご利用者は手作りの国旗を振り、手を叩きながら大きな声で最後の競技を応援していました。

寒い季節になる時期ではありましたが、今年一熱くなった素晴らしい日になったと思いました。

(広報委員 T・O)

職場内研修会

職場内研修会は、上半期と下半期に分け、人材育成と職員の質の向上を目的としています。

下半期は防災・権利擁護・メンタルヘルス・リスクマネジメントの研修を全職員が受講しました。

内容も工夫されており、講師が一方的に喋るものではなく、受講者に問いかけ考えてもらい、グループで話し合



い、実際に体感するといった、実になる(印象に残る)研修を心掛けています。

(広報委員 H・M)



新入職員紹介



仲間 正幸(看護師)

★生まれ月：四月

★趣味・特技：登山

★ひとこと：チームワークを大切に頑張っていきたい。



カウン セット(ケアワーカー)

★生まれ月：十月

★趣味・特技：ゲーム、サッカー

★ひとこと：分からないことを優しく教えていただき感謝しております。ご利用者や職員とコミュニケーションをさらに取れるよう日本語の上達を頑張ります。



ニン プイン ピュー

(ケアワーカー)

★生まれ月：六月

★趣味・特技：絵を描くこと

★ひとこと：職場の皆さんが温かく歓迎してくれ、とても感謝しております。毎日の仕事を楽しく働き、専門知識や日本語をさらに学び、資格も取りたいと思います。



中山 すみれ(管理栄養士)

★生まれ月：一月

★趣味・特技：お菓子作り・編み物

★ひとこと：まだまだわからないことばかりですが、早く一人前になれるように頑張りたいです。

寄付 寄贈

◎坂本 絹江 様
◎野村 治道 様
◎金子 イサオ 様
◎兼井 悦子 様
◎吉村 六次 様
◎吉澤 伸行 様
◎みどり調剤薬局 有限会社 様

ありがとうございました。

編集後記

冬本番になり出勤前既に車の窓が凍り、タイヤはスタットレタイヤに履き替え、朝の道路の凍結を心配しながら安全運転で出勤する日々です。

松原苑では、毎年秋の晴れの日に仕事中に悩むことは虫関連の問題です。施設内にはどこからともなくカメムシやテントウムシなどが入り込み我が物顔で飛び回っている時があります。換気をしようと思窓を開けるとベランダでは多種多様の虫たちが中に入ろうとこちらの様子をうかがっています。松原苑ならではの光景です。

冬になると年に数回、松原苑は銀世界に包まれます。雪の予報がでると一部の職員は、事前に泊まる準備をして出勤します。これも松原苑ならではの光景です。

松原村の自然と四季を感じ、様々なリスクを前向き捉える松原苑の風土を心地良いと感じている広報委員より。